

宮城学院女子大学白書刊行にあたって

大学基準協会による「宮城学院女子大学に対する大学評価(認証評価)結果」

(2012年3月)において、本学は同協会の「大学基準に適合していると認定」された。本白書は、評価時点における本学の状況と今後の方向を示すものである。

前回2005年の白書から7年、本学はその間に、2学科の新設を含む改組や大学院新研究科の設置をはじめとする、多くの改革を行った。今回の評価にあたっては、2010年度当初から基礎データの作成を始め、夏休み明けに担当部署からの報告を受けて、自己点検評価報告書の作成を進めた。前回の評価項目から変更された第2期の認証評価項目に多少戸惑いながらも、報告書をまとめ、2011年3月10日の教授会において報告書公開と認証評価への申し込みを確認した。本学が大震災に襲われたのは、その直後の3月11日であった。その影響で、卒業式や入学式は行えず、新学期を開始したのは5月の連休明けであった。その後、施設の復旧をほぼ終え、9月18日の創立125周年記念日には「学芸学部卒業生・大学院修了生のつどい」および「半年遅れの卒業パーティー」を行うことができた。

認証評価のプロセスは、こうした中で進められたが、震災後の学生支援あるいはボランティアなど評価が明確になったものもあり、震災の影響をうけて改善した点もある。また、認証評価にあたる基準協会分科会の報告や、全分科会委員が来学して行われた2日間に渡る実地調査における意見交換を通して、改善すべき点だけでなく、本学の優れた点にも気づかされた。

認証評価が進行する期間は、また、本学の大学中期教育計画を作成する期間でもあった。そこで、この1年間に進められた改善や対応などについても、最後にふれている。

本白書は、4部構成になっている。

1. 2010年度宮城学院女子大学自己点検報告書
2. 2010年度宮城学院女子大学基礎データ
3. 大学基準協会「宮城学院女子大学に対する大学評価(認証評価)結果」
4. 自己点検評価報告書公開後の改革 2012.3

なお、大学基礎データのうち専任教員の教育・研究業績一覧は別冊とした。

自己点検評価から認証評価を経て今回の白書作成にいたる2年間の過程は、前回と同様、あるいはそれ以上に有益なものだった。ただ、認証評価は、大学や学部、研究科の機関評価に留まらざるをえない。1学部10学科からなる本学においては、教養教育以外の分野別評価を、今後、学科毎に進めなければならない。震災の影響は、長期にわたって幅広い分野に及ぶであろう。そのような状況の下で、本学は、本白書を足場に改革をすすめていきたいと考えている。ご意見を賜れば、幸いである。

2012年3月26日
宮城学院女子大学 学長 海野 道郎